

2024年6月21日

長時間作用性局所麻酔薬が安定供給されるまでの対応について

公益社団法人 日本麻酔科学会

理事長 山蔭 道明

安全委員会

委員長 藤村 直幸

2024年6月5日付理事長声明で案内しましたように、アナペイン製剤（サンド株式会社）の新製造所への業務移管実施中に、逸脱によるポリアンプル製剤の製造遅延が発生したため、7月以降に出荷量が減少する予定です。それに伴い、同社のアナペイン注 2 mg/mL 100ml バッグ製剤、マーカイン製剤も予防的に限定出荷されます。アナペインの代替候補となるポプスカイン製剤（丸石製薬）が予想される急激な需要の増加に対応できず、既存採用先医療機関への安定供給を目的にすでに限定出荷されています。このため、従来通り長時間作用性局所麻酔薬を使用することが困難となることが予想されます。

長時間作用性局所麻酔薬が安定供給されるまで、限られた局所麻酔薬を有効的に使用するために、下記を参考に各医療機関で対応をご検討ください。

1) 長時間作用性局所麻酔薬使用の優先順位策定

例)

- A) 全身麻酔を回避すべき必要十分な理由がある症例（帝王切開術など）
 - B) 無痛分娩（全例、もしくは心疾患合併妊娠など医学的理由により実施が望ましい方に限定）
- など、各施設の状況に合わせて、長時間作用性局所麻酔薬使用の優先順位を策定する。

2) 局所麻酔薬使用量削減の方策や他の鎮痛方法検討

例)

- A) 原則、全身麻酔で維持し、術後鎮痛処置が必要な症例に対しては、経静脈的自己調節鎮痛法 (IV-PCA) で行う。
 - B) 術野に局所麻酔薬を投与しない。
- など、各施設の状況に合わせて、局所麻酔薬使用量削減や鎮痛方法を検討する。

長時間作用性局所麻酔薬製剤については、買い込みは厳に控えていただき、当面の必要量に見合う量のみの購入をお願い申し上げます。

出荷停止および限定出荷解除の時期につきましては、確定次第改めて周知させていただきます。以上、ご理解とご協力の程、何卒宜しくお願い致します。